文楽座命名一五〇年　令和4年 初春文楽公演 配役表

1月3日（月）～1月26日（水）　※14日(金)は休演

第1部　午前11時開演

寿式三番叟

翁　呂勢太夫
千歳　靖太夫
三番叟　小住太夫
三番叟　亘太夫
碩太夫
聖太夫（前）
薫太夫（後）
錦糸
清志郎
寛太郎
清公
燕二郎

千歳　勘市
翁　和生
三番叟　玉勢
三番叟　簑紫郎

菅原伝授手習鑑

寺入りの段

芳穂太夫
清丈

寺子屋の段

前　錣太夫
藤蔵
切　咲太夫
燕三

菅秀才（玉勘昇）（後）征（前）
よだれくり（玉勘介）（後）彦（前）
女房戸浪一輔
女房千代勘彌
小太郎玉峻
下男三助簑之
武部源蔵和生
春藤玄蕃（文紋）秀（後）哉（前）
松王丸玉男
御台所（玉紋）誉（後）吉（前）
手習子・駕籠舁　大ぜい
捕手・百姓　大ぜい

第2部　午後2時15分開演

絵本太功記

二条城配膳の段

武智光秀　三輪太夫
尾田春長　津國太夫
森の蘭丸　咲寿太夫
武智十次郎　碩太夫
浪花中納言　南都太夫
勝平

浪花中納言　亀次
尾田春長　文司
武智光秀　勘十郎
森の蘭丸（玉翔）（前）簑太郎（後）
武智十次郎　玉佳
母さつき　勘壽
妻操　簑二郎
嫁初菊　紋臣
旅僧実は　玉志（前）
真柴久吉（玉助）（後）
加藤正清（玉延）（前）簑悠（後）
百姓　大ぜい
兵軍　大ぜい

夕顔棚の段

藤太夫
団七

尼ヶ崎の段

前　呂勢太夫
清治

後　呂太夫
清介

※演目の入れ替えはございません。

※　前半…1月3日（月）～1月15日（土）
後半…1月16日（日）～1月26日（水）

文楽座命名一五〇年

人形浄瑠璃文楽座は、竹本義太夫が貞享元年（一六八四）に道頓堀に竹本座を旗揚げして以来、その芸系を伝える、唯一の劇団です。この劇団を代々にわたり経営した植村家の元祖、正井与兵衛の素人の浄瑠璃語りとしての号『文楽』を冠した『文楽座』が、劇場および劇団として正式に命名されたのは、明治五年（一八七二）一月に松島文楽座（現　大阪市西区）が開場した時のことで、令和四年（二〇二二）は一五〇年目に当たります。この節目の年に、当公演を記念公演として開催します。

第3部　午後5時30分開演

染模様妹背門松

生玉の段

希太夫
ツレ　亘太夫
ツレ　清馗
清方

娘お染　清十郎
丁稚久松　勘彌
番頭善六　簑一郎
祭文売り（和馬）（後）玉路（前）

質店の段

千歳太夫
富助

質受男　勘次郎
質入女房　清五郎
百姓久作　玉也
母おかつ　文昇

蔵前の段

織太夫
宗助

親太郎兵衛　玉輝
下男　大ぜい
下女　大ぜい

戻駕色相肩

山村友五郎＝監修

廓噺の段

次郎作　睦太夫
与四郎　靖太夫
かむろ　希太夫
咲寿太夫
小住太夫
文字栄太夫
清友
団吾
錦吾
友之助
清允

浪花次郎作　玉志
吾妻与四郎　玉助
かむろ　簑二郎